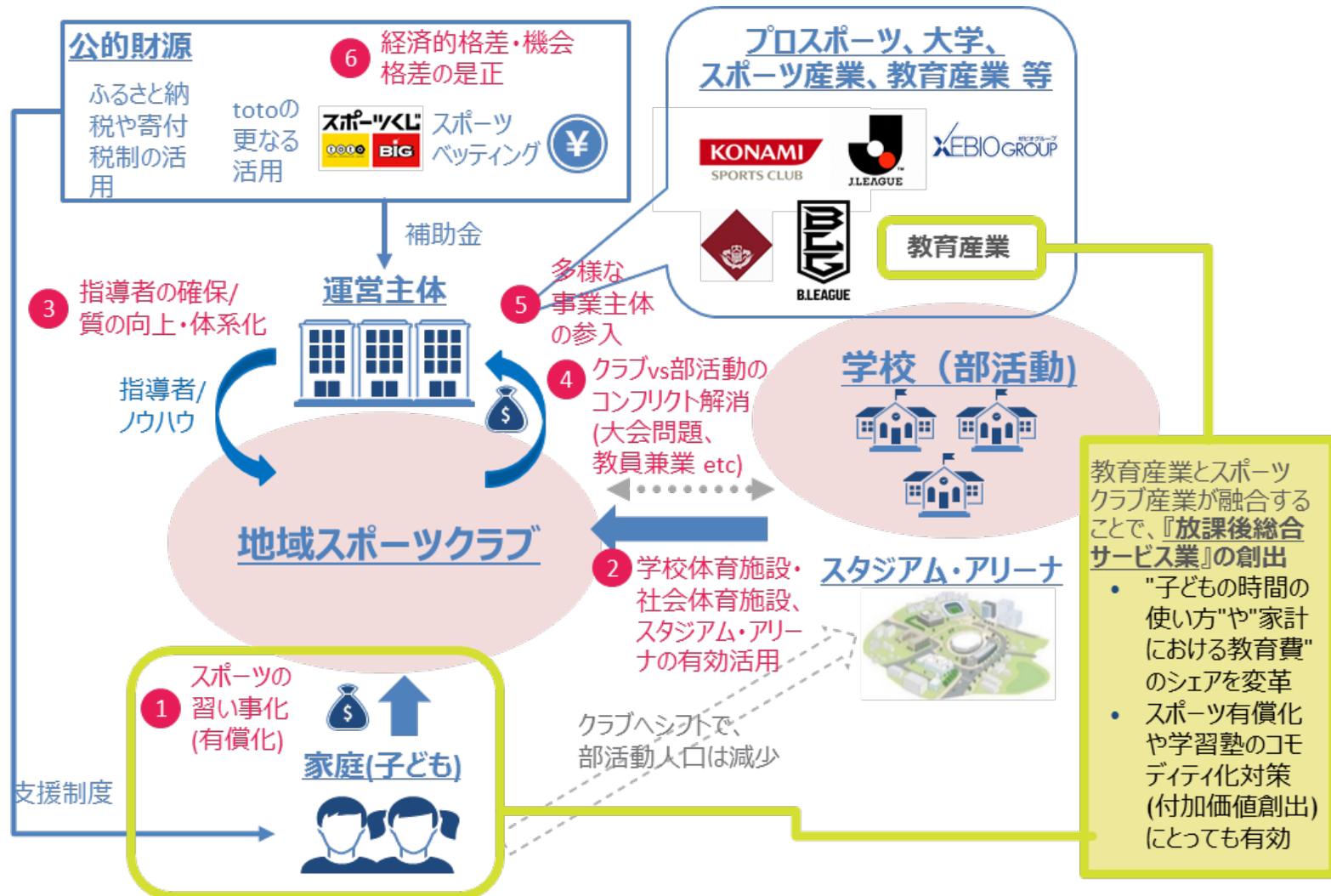


地域×スポーツクラブ産業研究会
第7回事務局説明資料

2021年2月10日
経済産業省 商務・サービスグループ
サービス政策課

目指す姿（確認）

- 目指す姿である以下のエコシステムに向け、前回提示した6つの論点を中心に、これまでの研究会で指摘された課題について考察を深める。



これまでにいただいたご意見：保険の在り方

- これまでの研究会では、地域スポーツクラブの運営上の課題として、生徒や指導者の保険、施設管理における保険の在り方についてご意見を頂いた。

(第2回研究会)

- セキュリティ面の問題として、学校施設・公共施設でケガや事故があった場合の保険制度の問題も重要。

(第2回研究会)

- 教育やスポーツの現場の大規模な損害保険は、海外でも手作りの保険と聞いており、日本ではこのリスクを取った大々的な保険商品は開発できていないと認識。
- 保険商品の開発もスポーツ分野や学校教育分野では必要な論点と認識。
- 制度として作られていくもの、民間も作ってくるものだと思います。これらを含めて準備をしておかないといけない。

(第5回研究会)

- 地域スポーツクラブでは、ケガした責任はどうなるのかなど、施設管理も含めて色々な問題が出る。スポーツなので、ケガは出る。出た後に、保険制度があるか、だれが管理者なのかなどをしっかりとっておくべき。

これまでにいただいたご意見：地域スポーツクラブのビジネス化

- 地域スポーツクラブをボランティアに頼るだけでなく、持続可能なビジネスとして運営していくためには、多様な付加価値創出を検討することが必要。

(第1回研究会)

- 世帯別の収入格差などの課題はあるが、学校に小さなスポーツクラブを作り、スポーツだけでなく色々な事業が行えて、いかに事業化してお金を作って彼らに還元できるかということを考えていかなければならない。

(第4回研究会)

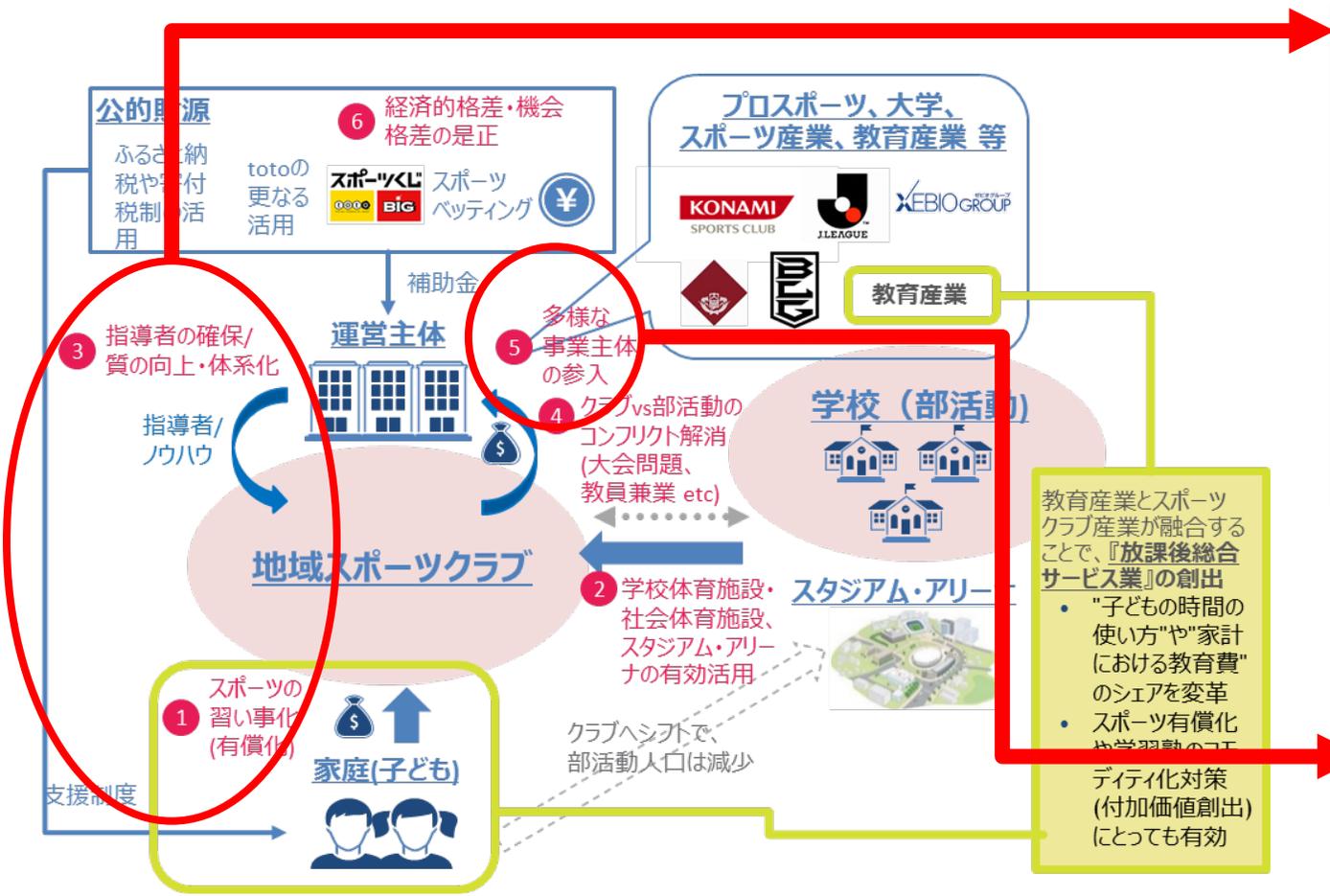
- 地域スポーツクラブを持続可能な産業としていくためには、スポーツという業種に限らず、ビジネスパートナーが必要。また、地域課題や社会課題を解決するという観点から資金の出し手も必要。地域スポーツクラブを産業としていくからには、異業種、またスポーツクラブビジネスそのものだけのゴールではないゴールに基づいた資金の出し手を集めていくことが肝要ではないかと考える。

(第4回研究会)

- 塾やピアノ等の習い事には月謝を払うが、スポーツ・運動に対して対価を払うという感覚は保護者にもないし、払うだけの価値も見出せていない。

本日プレゼンいただく内容

- 今回（第7回）は、これまで頂いたご意見を踏まえ、以下の2点についてお話しを伺う。



- ①スポーツの習い事化（有償化）
- ③指導者の確保/質の向上・体系化
- 学校部活動での保険の状況
→日本スポーツ振興センター 朝倉部長より
- 地域スポーツクラブでの指導者・子どもの保険の可能性
→東京海上日動 太田垣室長、海鉾様より

- ⑤多様な事業主体の参入
- 多様な事業主体が連携しつつ、地域スポーツクラブが持続可能な形で運営していくためのデジタルマーケティングの可能性
→プラスクラス・スポーツ・インキュベーション平地様より

御議論いただきたい主な論点について

<保険の在り方について>

- 今後、学校部活動が地域単位の活動に移行した場合、生徒のケガ等に対する補償や、指導員の賠償補償等はどうあるべきか。
- 部活動の地域移行が進む場合、現在の災害共済給付制度とスポーツ安全保険等のリスクの見積もりが変動すると考えるが、制度の見直しはあるか。

<デジタルマーケティングの可能性について>

- 地域スポーツクラブ自体や、その上位団体の運営にITやデジタルマーケティングを活用することで、クラブ運営に係る様々な課題解決や、資金調達・新しいビジネス機会の獲得につながる可能性をどう考えるか。